

研究主題 「『思考・判断』の内容を明確にした指導の工夫

ーボール投げゲームの学習を通してー

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
調布市立第三小学校 主任教諭 生井 俊明

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領（平成20年3月告示）には体育科の目標として、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」が掲げられている。小学校学習指導要領解説体育編（平成20年8月）では、この資質や能力を育てるためには、「児童の能力・適性、興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である。」と記されている。

体育の授業では、「技能」、「態度」、「思考・判断」に関して指導しているが、「ゲーム、ボール運動領域に関する意識調査」（東京都小学校体育研究会 平成25年2月～6月）において、「思考・判断の評価」を難しいと感じている教員の割合が73.1%という結果がある。教員は「思考・判断」に関する指導や評価に難しさを感じている現状がうかがえる。

これらのことから、単元で身に付けさせたい「思考・判断」の内容を具体的に想定しておくことで、児童が運動の課題を解決する姿を、時機を逸することなく適切に評価し、指導につなげることができると考えた。また、「思考・判断」に関する自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する学習が促進される教材の開発が必要であると考えた。

そこで、本研究では、ゲーム領域ボール投げゲームに焦点を当て、「思考・判断」の内容を明確に示した指導計画及び児童が自ら運動の仕方を工夫できる教材を開発することとした。

第2 研究仮説

児童に身に付けさせたい「思考・判断」の内容を明確にすることで、児童は自ら運動の仕方を工夫することができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 児童の実態把握

「平成25年度東京都体力・運動能力、運動習慣等調査結果」（東京都教育委員会 平成25年10月）から、投能力の低下傾向及び運動に対する苦手意識のある児童・生徒の学年進行に伴う増加が確認された。

(2) 指導計画における評価規準の検討

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所 平成23年11月）から、指導計画の作成に当たって、学習活動に即した児童の姿を具体的に示す必要性が示唆された。

2 調査研究（平成26年7月実施）

(1) 調査の概要

- ア 対象 都内公立小学校6校 教員69名 第2学年児童514名及び第5学年児童493名
- イ 内容 ボール投げゲームに関する実態及び意識調査

(2) 教員に対する調査の結果

体育の授業で指導する「技能」、「態度」、「思考・判断」のうち、「思考・判断」に関する手だてを「工夫している」及び「どちらかといえばしている」と回答した教員の割合は約7割であった

(図1)。肯定的に回答した教員のみを抽出し、「授業中に見られる児童の様子」に関する回答を集計した結果、「思考・判断」に関わる項目に対して、「全ての児童に見られる」及び「半数以上の児童に見られる」と回答した教員の割合は、いずれも6割弱であった(図2)。

これらのことから、教員が手だてを工夫していたとしても、児童の変容は表れにくいことが明らかになった。

(3) 児童に対する調査の結果

ボール投げゲームの学習において、考えたり工夫したりしたことがあるかどうかの問いに対して、肯定的に回答した児童の割合はいずれも5割弱であった(図3)。また、ボール投げゲームの学習においてどんなことが楽しいかの問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は、「勝ったとき」、「得点したとき」は7割強であるのに対し、「作戦を考えるとき」、「規則を工夫するとき」はいずれも4割弱であった(図4)。

これらのことから、児童は「思考・判断」に関する学習活動の経験が少なく、「思考・判断」に関する学習に楽しさを見いだす児童も少ないことが明らかになった。

(4) 考察

教員に対する調査の結果から、教員が手だてを工夫し授業中の児童の姿を適切に把握するためには、「思考・判断」の内容を指導計画に具体的に位置付けることが必要であると考えられる。また、児童に対する調査の結果から、児童が自ら作戦を考えたり規則を工夫したりできる教材が必要であると考えられる。

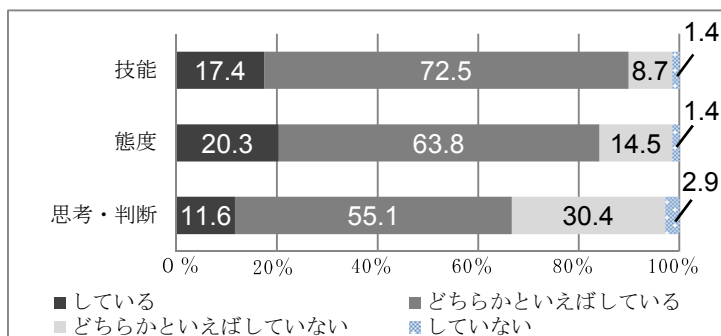


図1 内容に関する手だての工夫

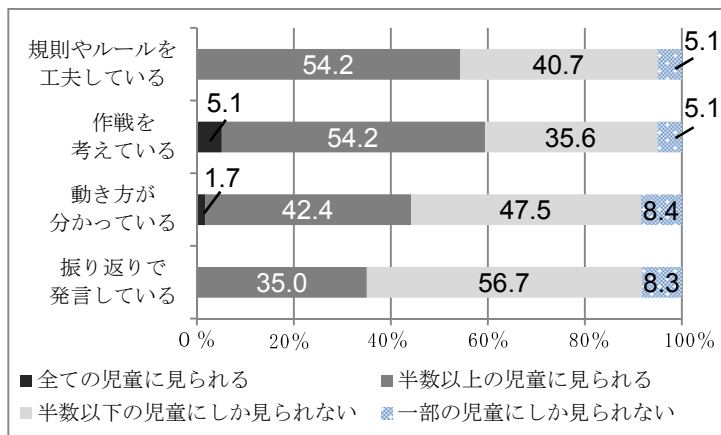


図2 授業中に見られる児童の様子

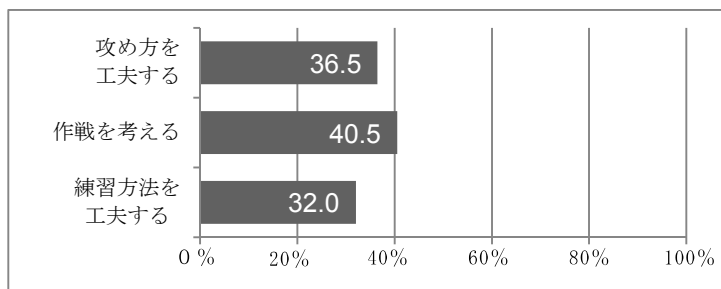


図3 ボール投げゲームで工夫したことがある内容

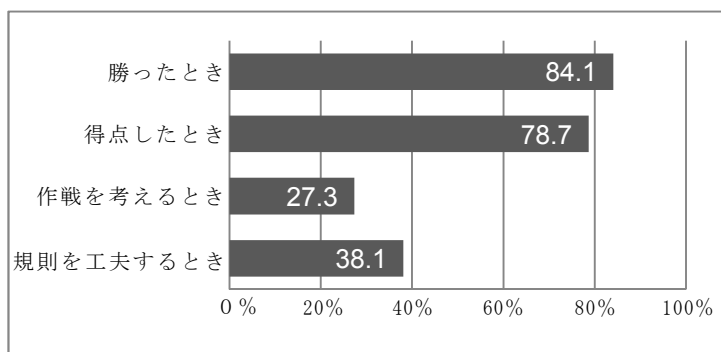


図4 ボール投げゲームで楽しいと感じること

3 開発研究

(1) 「思考・判断」の内容を明確に示した指導計画

単元を通して段階的に児童が運動の仕方を工夫することができる指導計画を開発した。

まず、単元で身に付けさせたい「思考・判断」の内容を明確にし、指導計画に具体的に明記した。例えば、第2学年の指導計画は、単元の課題を「どのようにしたら得点ができるか」とし、ねらいを単元前半は「一人一人が投げ方を工夫して得点する」こと、単元後半は中学年への系統的な学習を考慮し、「チームで協力して攻め方を工夫して得点する」こととした。

(2) 児童が自ら運動の仕方を工夫する教材

技能の高低や相手の場所に応じて運動の仕方を工夫する教材を開発した(図5)。

技能の低い児童に配慮して、コートを楕円形にして的に近い場所を設定したり、技能の高い児童の意欲を更に喚起するために的から遠い場所にボーナスゾーンを設定したりした。全ての児童がチームで協力して攻め方を工夫する中で、パスを使って攻めることの有効性に気付くことができるものとした。

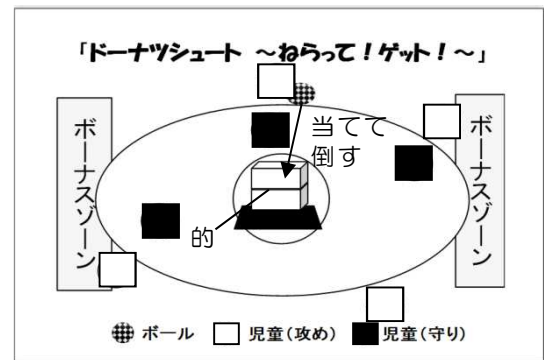


図5 開発した教材

4 検証授業(平成26年9月~10月)

(1) 検証授業の概要

都内公立小学校第2学年を対象に、前項で開発した指導計画及び教材を用いてボール投げゲームの授業(全6時間)を実施し、その有用性を検証した。

(2) 開発した指導計画及び教材の有用性の検証

児童による形成的授業評価によれば、授業の中で分かったことを問う「成果」に関して向上が認められた。また、単元におけるボールを投げた回数が、全体平均よりも多い児童(上位群12名)と少ない児童(下位群15名)の平均値を算出したところ、いずれも「成果」に関して向上が認められた(図6)。

また、学習カードから下記のようなパスを意識した動きに関する記述が見られ、授業を進める中で増加した(表1)。

- ・相手がいないところにいる味方にパスをしてシュートしてもらったら得点できた。
- ・味方でパスをつないでシュートすると点が取れる。
- ・ボーナスゾーンでパスをし合って得点することができた。
- ・守りがいないところにまず自分が行って、パスしてもらって点が取れた。
- ・ボールを持っているときに相手が来たら、素早く味方に渡すとシュートできた。

表1 児童による振り返りの一部抜粋

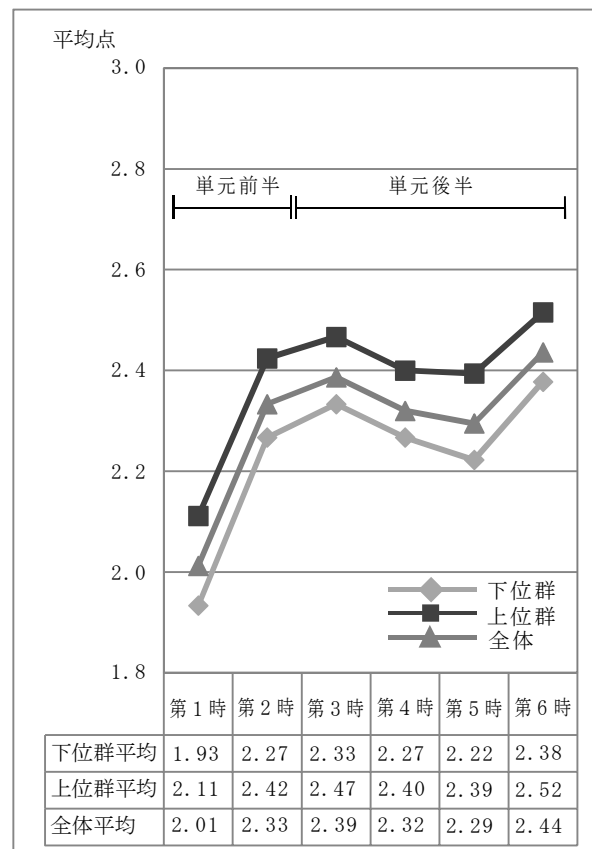


図6 形成的授業評価(成果)の推移

さらに、映像記録から、チーム間で差はあるものの、授業を進める中で、全てのチームで「相手がいないところに動いてパスをもらおうとしている」動きの発現回数が増加した。

これらのことから、児童は、開発した指導計画及び教材を用いた学習を通して、攻め方の工夫について思考したり、判断したりすることができたと考えられる。

(3) 検証授業から明らかになった児童の変容

ア 映像記録から明らかになった児童の動きの変容

単元における全てのゲームの総得点が最も多かったAチーム(171点)と最も少なかったBチーム(75点)の攻め方を抽出し、両チームの攻め方の工夫の差異を比較したところ、有意な差異が認められたのは、「パスをしてシュートチャンスを見付けようとしている」攻め方であった(図7)。

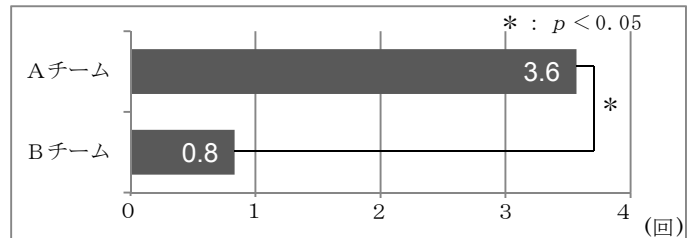


図7 パスをしてシュートチャンスを見付けようとしている回数(1ゲーム平均)

このことから、得点の多少にチームでパスを用いて攻めているかどうかが大きく関与していることが明らかになった。

また、ゲーム中に声を出してパスをしたり、パスをもらおうとしたりしている様子や、振り返りでパスを使って得点につながった動きを紹介したりする様子も見られるようになった。児童がチームでパスを使った攻め方に気付き、工夫している姿が認められた。

イ ソフトボール投げの記録の変容

単元前後のソフトボール投げの測定結果から、約6割(27人中16人)の児童に投能力の向上が認められた。このことから、本教材が児童の投能力の向上にも寄与することが明らかになった。

第4 研究の成果

- ・ 「思考・判断」の内容を明確にしたことで、授業中に運動の仕方を工夫する児童の姿を把握し指導に生かすことができた。
- ・ 児童が攻め方を工夫するボール投げゲームの教材を開発したことで、児童はパスを有効に使った攻め方に気付くことができ、自ら考えたり工夫したりしながら学習に取り組むことができた。

第5 今後の課題

- ・ 「思考・判断」の指導や評価に関して難しさを感じている教員でも活用できるよう、パスを有効に用いることができないチームの児童の気付きを促す具体的な指導の工夫を指導計画に加えるとともに、易しいゲームを開発する。
- ・ 他の運動領域、他学年においても、「思考・判断」の内容を明確にした指導計画を作成するとともに、児童が運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりする教材の開発を継続して行う。